

《学部消息》

教授会メモ

12月18日(水) 定例教授会

理学部4号館(1320号室)

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄付金の受入れについて
- (3) 物品寄附の受入れについて
- (4) 教務委員会報告
- (5) 東京大学理学部規則「別表」の一部改正について
- (6) 人事委員会報告
- (7) 企画委員会報告
- (8) 理学院計画委員会報告
- (9) その他

1月16日(木) 定例教授会

理学部化学本館講堂

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄付金の受入れについて
- (3) 人事委員会報告
- (4) 企画委員会報告
- (5) 理学院計画委員会報告
- (6) 理学部長候補者の選出について
- (7) その他

2月19日(水) 定例教授会

理学部4号館(1320号室)

議 題

- (1) 人事異動等報告
- (2) 奨学寄付金の受入れについて
- (3) 物品寄附の受入れについて
- (4) 学士入学について
- (5) 教務委員会報告
- (6) 人事委員会報告
- (7) 会計委員会報告
- (8) 企画委員会報告
- (9) 理学院計画委員会報告
- (10) 評議員の選出について
- (11) 臨海実験所長の選出について
- (12) 素粒子物理国際センター長の選出について
- (13) 地殻化学実験施設長の選出について
- (14) 企画委員会委員の選出について
- (15) 人事委員会委員及び会計委員会委員の半数改選について
- (16) その他

人事異動報告

(講師以上)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
天文研	助教授	小 杉 健 郎	4. 1. 1	昇 任	国立天文台教授へ

(助手)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
地 質	助 手	藤 本 光一郎	3. 12. 15	転 任	工業技術院地質調査所通産技官へ
地球惑星	〃	中 島 健 介	4. 1. 1	配 置 換	気候システム研究センター助手へ
植 物	〃	佐 藤 直 樹	〃	昇 任	東京学芸大学助教授へ
天文研	〃	小 林 行 泰	〃	〃	国立天文台助教授へ
物 理	〃	松 尾 泰	〃	採 用	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
天文	〃	茂山俊和	〃	採用	
天文	助手	土居守	4. 1. 1	〃	
地球惑星	〃	升本順夫	〃	〃	
化学	〃	寺嵯亨	4. 2. 16	〃	

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
動物	事務官	井内啓子	3. 12. 1	配置換	工学部土木工学科へ
〃	〃	川合広子	〃	採用	

外国人客員研究員報告

所属	受入れ教官	国籍	氏名	現職	研究員期間	備考
情報科学科	國井教授	フランス	MICHEL Kuntz	ECRC(ミューン)GIUKU プロジェクト主任研究員	平 4.5.1～ 平 5.4.30	
物理学科	小林助教授	ロシア共 和国	VINOGRADOV, Andrey V	ペテフ物理学研究所 上級研究員	平 4.2.28～ 平 4.5.27	
地球惑星 物理学科	永田教授	中華人民 共和国	QIAN Zhichun 銭志春	上海台風研究所海洋 気象研究室主任、副 研究員	平 3.12.18～ 平 4.10.5	
〃	山形助教授	ロシア共 和国	OSTROVSKII Alexander Grigorievich	ロシア科学アカデミーP.P Shirshov 海洋研究所 主任研究者	平 4.2.29～ 平 4.3.31	
化学科	増田教授	イラン	SHABANI, Mohammad Bagher	ダブリーズ大学講師	平 3.11.20～ 平 4.3.31	
〃	〃	インド	SAHOO, Sarata Kumar	インド技術研究所 研究員	平 3.4.10～ 平 4.3.31	平 3.5 月教授会 報告済の延長： 延長前期間 3.4. 10～3.12.31 で 了承されたもの
〃	〃	大韓民国	LEE Seung Gu 李承求	韓国動力資源研究所 研究員	平 3.11.20～ 平 4.3.31	

海外渡航者 (6月以上)

所属	官職	氏名	渡航先	期間	目的
素粒子	助手	塚本俊夫	スイス フランス	4.1.4～ 4.7.5	レプトンを含む過程のデータ解析及びオンラインプログラムの整備と国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
素粒子	助手	森俊則	スイス フランス	4.2.26～ 4.9.29	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため

博士(理学)学位授与者

平成3年11月25日付学位授与者(2名)

専攻	氏名	論文題目
論文博士	上田正仁	微小トンネル接合の理論的研究
論文博士	天辰禎晃	電子的に励起された分子の構造及びダイナミックスに関する理論的研究

平成3年12月19日付学位授与者(5名)

専攻	氏名	論文題目
論文博士	海老原 円	法線束が豊富であるようにトーリック曲面を含む3次元代数多様体の単有理性について
論文博士	大原 淳	結び目のエネルギー汎函数の族
論文博士	坂田 将	火山岩を貯留岩とする石油・天然ガス鉱床の炭化水素の起源に関する地球化学的研究
論文博士	関根理香	酸化物表面の電子状態及び金属錯体との化学反応性
論文博士	斎藤祐見子	合成プロテアーゼ阻害剤によるラット副腎褐色細胞腫由来株細胞 PC12 細胞の神経細胞への分化誘導およびその機構に関する研究

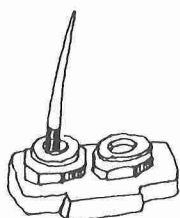
平成4年1月27日付学位授与者(9名)

専攻	氏名	論文題目
物理学	寺寄 享	フェムト秒レーザー分光法によるバナジルフタロシアニンの励起状態動力学的研究
論文博士	矢嶋 徹	不安定系における非線形局在モードの厳密解
論文博士	安田 一郎	三陸沖暖水塊の変遷過程に関する研究
論文博士	其 魯	鉄隕石と輝水鉛鉱中のモリブデン同位体存在比の精密測定とそのための基礎的研究

専攻	氏名	論文題目
論文博士	日高 洋	天然原子炉としてのオクロ鉱床の同位体化学的研究
論文博士	牧嶋 昭夫	セリウム同位体比精密測定法の開発とその地球化学的応用
論文博士	森 初果	常圧有機超伝導体 κ -(BEDT-TTF) ₂ Cu(NCS) ₂ (T _c =10.4K)
論文博士	大川 和宏	分子線エピタキシー法により成長した不純物添加 ZnSe 薄膜のフォトルミネッセンス特性と電気特性に関する研究
論文博士	南 英俊	ビスマス系酸化物半導体の光伝導機構と電子構造

平成4年2月20日付学位授与者(4名)

専攻	氏名	論文題目
物理学	佐々木 真人	LEP における電子, ミューオン, パイオン崩壊を用いたタウ軽粒子の崩壊分岐比と縦偏極度の測定
論文博士	佐 伯 修	2次元球面とホモトピー同値な4次元多様体について
論文博士	井 田 隆	高圧下における電荷移動錯体の光学的性質の研究
論文博士	真行寺 千佳子	ウニ精子鞭毛運動時の微小管滑り速度決定要因に関する研究



理学部長と理職との交渉

12月16日、1月20日に、理学部長と理学部職員組合（理職）との定例の学部長交渉が行われた。その主な内容は以下の通りである。

1. 職員の昇格・昇級等の待遇改善について

1) 事務職員

12月の交渉で、理職は来年度の事務職員の昇格に関する本部からの事務長ヒアリングの経過を質問した。事務長は、先に理職から出された昇格要望書の件について、しっかりと本部に要請したと答えた。理職は、数理学部研究科の職員人事について尋ねた。事務長は、12月末およびそれ以降の予算の内示により、事務機構が明らかになると述べた。

1月の交渉では、事務長から数理学部研究科には新たな定員がつかず、掛長等のポストも増えなかったと説明があった。理職は、ポストが増えない以上、昇格が遅れている数学職員の事務主任発令および5級発令は理学部在籍中に行うべきであると主張した。

12月の交渉で理職は、施設系職員の4級昇格が遅れている理由を質問した。事務長は今度の4月をめどに昇格を考えていると回答した。理職はさらに、複数の事務主任の5級昇級が遅れていることを指摘し、これを早急に実現するように要請した。

2) 技術職員

11月の交渉で理職は、天文学教育研究センターの職員の4級昇格が遅れている事情を質した。事務長は、事態はほぼ判明しており、本部とも連絡をとって来年度の昇格に向けて努力していると回答した。また、理職は空きポストになっていた技術長の発令の有無を尋ねた。事務長は11月16日付けで遡及発令したと答えた。

12月の交渉で理職は、技術主任の欠員の理由を質問した。事務長は、配置の理由づけが十分にできていないため、まだ補充していないと答えた。理職は、過去に本部側から「理由づけは不要」との発言があったことを指摘した。学部長は、形式的に理由づけの書類が要求されると述べた。12、1月の交渉で理職は、数学職員の6級昇格を強く要望した。事務長は、引き続き努力すると答えた。

2. 定員外職員の定員化について

12月の交渉で理職は、一人の該当者について本部と折衝するように要求した。また、1月の交渉で理職は、この一人に関する定員化の要望書を、学部長名で本部に提出するように要請した。学部長は、要望書を提出するつもりであると述べた。12月、1月の交渉で理職は、もう一人の該当者に関する現況を質問した。学部長は、当該教室の準備が整うのを待っている段階であり、条件が整った段階で定員化への行動をとると答えた。

3. 行(二)から行(一)への振替について

12月、1月の交渉で理職は、懸案となっている行(二)から行(一)への振替について再度要請を行った。事務長は、今のところ進展はなく、振替の理由づけが難しいが、引き続き努力すると回答した。

4. 数理学部研究科設立に関わる問題について

12月の交渉で理職は、11月末の数理学部研究科設立準備会の経緯を尋ねた。学部長は、研究科として独自の事務組織を持つように要望したと答えた。さらに学部長は、7項目からなる要望書を教養学部の名で本部に提出したことと、12月末の内示が出た段階で設立準備委員会を設置し、その中に設立準備室において事務機構等の検討を行うことを述べた。理職は、設立準備室に現在の数学科の職員が参加するように要請した。学部長は、考慮すると回答した。

1月の交渉では、事務長から、数理学部研究科の事務組織が教養学部事務に組み込まれることと、当初の職員数は学内措置による1人を新たに加えた11人であることが説明された。さらに事務長は、将来事務が独立することを目指して数理学部研究科事務掛を要求すると述べた。理職は、設立準備室への数学職員の加入を再度要望した。事務長は、最低1名は参加してもらう必要があると回答した。

12月、1月の交渉で理職は、現在の数学科の技官が、数理学部研究科移行後も技官として処遇されるように要望した。事務長は、技官はそのまま移ることになっているが4名では技術系組織が作れないのでポストの

用意が難しいと述べた。

5. 第8次定員削減について

12月の交渉で理職は、改革問題等による業務増を根拠に、理学部の定削の緩和を文部省等に働きかけるように要望した。学部長は、折をみて定削に反対するが、理学部を特別に緩和せよという主張は困難だと述べた。1月の交渉で理職は、理学部に対する定削の年毎の割当を尋ねた。事務長は、職員の削減数は平成4年度～8年度の各年度毎に3, 4, 3, 3, 3であり、助手については5年度に1, 6年度に1であると答えた。理職は、この割当は非常に厳しいものなので、運用面で定削を少しでもかわすように要求した。

6. 改革問題について

12月の交渉で理職は、大学院重点化と柏キャンパスとの関連を質問した。学部長は、広域理学大講座10グループのうち、7つを将来的に柏へ移すことが可能だと答えた。

1月の交渉で理職は、大学院重点化に関する12月末の内示の内容を尋ねた。学部長は、7専攻（化学・生化・動物・植物・人類・地質・鉱物）の部局化および教官ポストのアップシフト・広域理学大講座の発足・予算の増額等が認められる予定であると答えた。さらに学部長は、大学院の学生定員が増えることと、TA制度が法制化されたことを述べた。理職は、予算の増分の配分方法を質問した。学部長は、増分は理学部全体でならして使うが、広域理学大講座には重点的に配分したいと答えた。理職は、広域理学大講座の具体的内容を尋ねた。学部長は、4月もしくは夏頃までに5研究グループが発足すること、グループはおおよそ5～7年の時限付きであること、および1グループは専任教官2名・協力教官若干名・博士課程学生2名・修士課程学生5名から構成されることを述べた。さらに学部長は、中間子科学研究センターに技術職員が一名増

員になったが、事務職員の定員増は認められなかったと述べた。理職は、定員がつかない状況で広域理学の事務を行うことが可能かを質問した。学部長は、広域理学専担の事務が不可欠であり、そのための組織編成を現在検討していると答えた。理職は、広域理学の事務事項も既存の教室事務を経由するのではないかと尋ねた。学部長は、その可能性もあると答えた。理職は、増員がつかない状況で、計画書の規模で改革を実行可能かを質問した。学部長は、計画書に変更を加えるかについて、現在アンケートを行っているが、当面は臨時職員を雇って対処すると答えた。また、学部長は、文部省は広域理学大講座を評価しているので、実績をあげて事務組織を要求し、将来は広域理学院を目指したいと述べた。理職は、事務部長制への移行の有無について尋ねた。学部長は、今回の内示では実現しなかったが、来年度は強く要求すると答えた。

7. 新一号館問題・その他について

12月の交渉で理職は、一号館建て替えの中の物理と中央事務の設置場所を質問した。学部長は、建物ワーキング・グループが部屋の利用状況を調査しており、それを参考に決めると答えた。理職は、新一号館図書室に関するこれまでの議論では、長期展望が見えず、広く意見を収集していない等の問題があると主張した。学部長は、意見の収集について配慮すると述べた。理職は、新一号館の建物管理について尋ねた。事務長は、現在の施設掛では対応できないため、外注になろうと答えた。理職は、以前提出した要望書に基づき、新一号館の理職の部屋の面積を確保するように再度要望した。また、新一号館に体育施設・休憩室・シャワー室・更衣室を設置するように要望書を提出した。1月の交渉で理職は、理職の部屋にFAXと直通回線を入れるように要望した。学部長は、来年度4月からなら可能であろうと答えた。

編集後記

南からの桜便りとともに、平成3年度理学部広報第4号をお届け致します。

今回は理学部を退職される方々、お送りする方々から22の原稿をいただくことが出来ました。年度末のお忙しい中を御執筆いただき有難うございました。

御退官の諸先生から、理学部の今後の教育と研究についての含蓄ある御言葉の数々をいただきましたが、特に「理学院」発足の時にあたり身の引き締まる思いが致します。

この号をもちまして編集担当も交代となります。

一年間、お忙しい中を快く御寄稿下さいました皆様、又、編集・発行に御尽力いただきました事務部の方々に厚く御礼申し上げます。

(内藤)

編集：

内藤周弼(スペクトル)	内線4600
横山茂之(生物化学)	4392
松本良(地質)	4522
守隆夫(動物)	4438
十倉好紀(物理)	4206
浅見新吉(中央事務, 庶務掛)	4005

印刷……………三鈴印刷株式会社
